

さいがい たげん ご し えん せつ ち うん えい くん れん あん
 災害多言語支援センター設置・運営訓練(案)

もくてき
 ■目的

- (1) 国際化協会と他団体や外国人市民など関係者が協力し合えるネットワークづくりの一環として実施する。
- (2) 大きな災害が起きたとき、市内に点在している外国人は災害情報を正確に受け取るの
 できない状況が予想される。多言語支援センターの設置・運営訓練を行って、関係者と
 連絡を取り合い、外国人被災者への支援の流れを確認する。

■ポイント

- (1) 訓練をする前に被災状況の設定、当日の役割分担、災害多言語支援センターの役割、訓練の目的を訓練参加者の間で共有する。
- (2) 防災訓練の状況と実際の災害の状況には大きなずれがあるという認識を持つ。(想定を超えることも起きる。)

がいよう
 ■概要

- 主催：国際化協会、多文化共生会議との共催
- 協力：市危機管理課、国際・男女共同参画課
- 場所：市役所分庁舎、本庁舎
- 想定状況：(現在は)7月26日(土)13時
- 発生日時：2014年7月25日(金)8時20分
- 地震の強さ：マグニチュード7.9 大和市で震度6強を観測
- 震源地：東京都新宿区西新宿／震源の深さ：約20km
- 津波：26日9時頃まで、東京湾の海面上昇が約10cm程度みられたが津波の心配はない。
- 市の体制：震災直後、大和市災害対策本部が本庁内に設置され、危機管理課および各課において、情報収集や各種応急対策が取られてきた。
- 被害状況：
- | | |
|-------------------------|--------------------|
| ○建物全壊 3,820軒 | ○火災17.35件／1,890棟消失 |
| ○死者 *人 | ○負傷者 1,300人 |
| ○災害時要援護者(要介護3以上) 2,020人 | |
| ○避難者 55,590人 | ○帰宅困難者 13,610人 |
| ○停電 32,630軒 | ○上水道断水 9,470世帯 |
- 通信回線：一般の電話回線は発災後20分程度はつながったが、その後は、つながりにくい状態。携帯電話はほとんど発災直後つながらなかったが、現在は一部復旧。

発災後約30分後から市内全域で「災害伝言ダイヤル」の運用が開始となっている。防災行政無線等は発生直後から正常に機能。

電気： 発災後、市内広範囲で停電が生じたが、現在は一部復旧、計画停電が予定されている。

ガス、水道、下水道： ガスは一部復旧。一部断水状態が続いている。現在状況を調査中。

鉄道： 全線不通。
市内各駅でも帰宅困難者があふれ、混乱状態が続いている。昨日の発災後から生涯学習センターでは帰宅困難者の受け入れを行っている。

協会状況： 国際化協会のある市役所分庁舎の建物は、1階ピロティ部分の一部天井が落ちてきて、建物全体がきしみ非常に危険な状態。庁舎の壁にはひびが入り、窓ガラスも一部が割れている。正面入りロディアのガラスも割れ、開けづらくなっている。部屋の中は、固定していない本棚などが崩れ、大混乱。倒れてきたキャビネットや本棚に挟まれ、職員5名のうち2名が足や頭などに軽傷を負った。

市と国際化協会、災害多言語支援センター立ち上げの準備が進められていて、分庁舎にセンターを設置する予定。センターの協力ボランティアが集まり始め、各作業班の活動が本格的に始まろうとしている状況。

■ 訓練の内容

<p>① 多言語支援センター立ち上げの流れを確認</p>	<p>→ 国際化協会事務局長が国際・男女共同参画課長へ協会の被害状況などを報告し、その旨、課長から災害対策本部へ報告する。 → 国際・男女共同参画課長、国際化協会事務局長の両者がセンターを立ち上げる。</p>
<p>② 多言語の情報提供</p>	<p>→ 災害対策本部から送られてきた情報を選別、分類し、やさしい日本語及び多言語へ翻訳する。 → 翻訳した文章を発信する。</p>
<p>③ 避難所巡回のロールプレイ</p>	<p>→ 避難所へ巡回し、レポートを作成する。 → 支援センターへ報告する。</p>

■ 当日の役割分担

情報班、巡回班